

# 関わる人の目線に立って。 ITを支える企業のアナログな精神



## POINT

創業から10年。  
進化する通信業と  
共に歩んできました。



## 株式会社 コネクト

代表取締役  
中村 猛留 Nakamura Takeru

2020年  
先輩起業家  
被表彰者

〒010-0925  
秋田市旭南3丁目3-27  
TEL.018-874-8202  
<https://connect-web.jp/>

## たどり着いた、地域還元という形

OA機器の販売、ネットワーク構築にまつわる工事やコンサルティングを手がける「株式会社コネクト」は、10年ほど前に秋田市に創業した。

「創業という野心的なイメージがありますが、当時の私が『本来、大事にすべきことはなんだろう?』と考えた末にたどりついたのが『地域還元』『関わる人を大事にする』というものでした」そう話すのは、代表の中村猛留氏。

そこで、2017年からスタートしたのが自社インターネット回線ブランド「コネクト光」だ。インターネット回線のNTTとのコラボ事業は、値下げによる誘客が多いなか、同社では契約すると費用の一部が県内企業に還元されるという仕組みを取り入れ、顧客とサッカーチームや障がい者団体などを繋ぎ、支援してきた。結果、回線数は約5年間で、2000回線にまで及んでいる。

## 変化する業界で、変わらないこと

「ITを街に例えると、我々の仕事はそこに辿り着くまでの

道路を整備したり、どの街へ行ったらいいか道案内するようなもの」と中村氏。しかし、その道路すら、日々複雑化し、更新される業界。最近では、県内企業だけでなく、ユーザーの目線に立った仕組みづくりにも力を入れているという。

その一つに、クラウドPBX(クラウド型ビジネスフォン)がある。この導入で、固定電話の番号はそのままに、世界中どこでもマルチデバイスで内線構築が可能となる。

「この仕組みは、ある業界にとってはダメージにもなり兼ねないものですが、お客様にとっては非常に便利なサービス。しがらみに囚われず、これまで支援して下さった皆様に還元していきたい」と中村氏。

今や、生活になくてはならない通信技術。変化も競争も激しい業界だが、関わる人の目線に立ち、寄り添うというアナログ的な姿勢こそが、変わらぬ信頼に繋がっていくのかもしれない。



オフィスの電話機能(外線・内線・転送など)を、スマホやPCから利用できる「クラウドPBX」。



ウェブやSNSでの戦略など、若いスタッフの声を広報や営業にも活かしている。



「ブラウブリッツ光」では、回線の利用料金の一部がブラウブリッツ秋田のチーム強化費として寄付される。